

示す 保つ 使う



～ 通路での転落・転倒等労働災害を防止するために

所定の安全通路を使わず、安全性が確保されていない通路を移動中、通路等からの転落や転倒した重篤な災害事例が散見されます。

リスクアセスメントの実施や危険予知活動等や法令基準の遵守により、通路の表示、安全性のチェックや危険性の低減により安全性をキープするとともに、労働者の省略行動や錯覚等によるヒューマンエラー行動を防ぎ、確実に安全通路を使用しましょう。

通路での転落・転倒等労働災害を防止するためのポイント

墜落・転落防止

(労働安全衛生規則第 519 条)

高さが 2メートル以上の作業床の端、開口部等で墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所には、囲い、手すり、覆い等を設けなければならない。

囲い等を設けることが著しく困難なとき又は作業の必要上臨時に囲い等を取りはずすときは、防網を張り、労働者に安全帯を使用させる等墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じなければならない。

安全通路の設定

(労働安全衛生規則第 540 条)

作業場に通ずる場所及び作業場内には、労働者が使用するための安全な通路を設け、かつ、これを常時有効に保持しなければならない。

通路で主要なものには、これを保持するため、通路であることを示す表示をしなければならない。

通路の照明

(労働安全衛生規則第 541 条)

通路には、正常の通行を妨げない程度に、採光又は照明の方法を講じなければならない。ただし、坑道、常時通行の用に供しない地下室等で通行する労働者に、適当な照明具を所持させるときは、この限りでない。

日々の作業打合せの徹底

作業計画に基づき、日々の現場の状況や作業進捗状況、作業員の配置を踏まえ、その日の作業内容や安全作業のポイント、慎重行動の励行など作業打合せを徹底しよう。



リスクアセスメント

リスクアセスメントは、職場の潜在的な危険性又は有害性を見つけ出し、これを除去、低減する手法です。

- 作業の前に危険性を見つけ出して対策を立てる
- 危険の度合いが高いものを先に手を打っていく
- 危険性情報の共有化
- 「想定外」の危険源を減らす



危険予知活動

危険予知訓練は、職場や作業の状況に潜む危険要因とそれが引き起こす現象を、イラストシートを使ったり、作業を想定しながら、小グループで話し合い、危険のポイントや重点実施項目を共有するとともに、指差唱和等により確認して行動するものです。

